



いつも熊本日日新聞をご購読いただきありがとうございます

先月よりインフルエンザや胃腸炎が流行していますが、皆さんは大丈夫でしょうか？予防対策はされておられると思いますが、油断せずしっかりと『手洗い・うがい・マスク』の予防対策をしてくださいね！



TARAGI YUNOMAE MIZUKAMI OKAHARU



OKAHARU TARAGI YUNOMAE MIZUKAMI

編集・発行

熊日多良木販売センター

球磨郡多良木町大字多良木 356-1

TEL 42-3355 FAX 49-1726

http://www.taragi.com/

熊日湯前販売センター

球磨郡湯前町中里 1830 TEL 43-2151

代小出堅太郎 石田敏郎 尾前竜二

那須信一 編集：岩水由香

球磨んタイムズは当社ホームページでもご覧頂けます。また facebook ではコーナーごとに掲載中。「熊日多良木販売センター」を検索して下さい。

多良木中学校の卒業生が 母校に図書カード贈る



昭和61年の多良木中学校卒業生が、卒業30周年を祝う会を1月2日に新辰己で行い、57名の参加で賑わいました。同会の実行委員代表3名（河野俊弘さん、恒松良孝さん、柿坂博志さん）が2月2日に同校を訪問し、栃原秀明校長に生徒の学習に役立てて欲しいと、10万円の図書カードを贈呈されました。栃原校長は「大切にに使わせていただきます」と感謝されておられました。また「多くの小中学校に勤務してきたけれども、多良木中のように毎年数多くの品をいただくのは無いだろう、それだけ母校に対する思いが強いのだろう」と話しておられました。

新聞記事感想コンクール表彰

優秀賞作品紹介

私は集落がなくなっていく経過、または集落が存続できる方法を研究しようと考えた理由は、これまでの歴史や文化、また自然を失いたくないためです。その集落が廃れてしまうと、文化も廃れ、歴史が途切れ、里山も荒れてしまいます。日本という国を構成するものの一つである集落を失わないためにも研究しようと考えました。



森に眠る林業の里

多良木高校3年

工藤 美咲

現在地方消滅の危機が問題となる中、私は「地域活性化」について追究したいと考え、進路を決めました。そんな折に見つけたこの記事、タイトルは「自然と一体化した、かつて林業により栄えた町。私は段々町に将来に関心するようになった。個人的な好奇心により興味を持ちました。これまでにどのような町だったのか、何があったのか、今はどうなっているのか、それを知りたいと思いました。

入選作品紹介

このコンクールを通じて、新聞を読んで、色々な考え方が出来るようになったと思います。最近若者の「新聞離れ」が話題になっていますが、(若い人を含め多くの方が)新聞を読んで、自分の考え方を膨らませると共に、豊かな心を育むことが出来ればと思います。



ふっこう割効果徐々に

多良木高校3年

鶴本 頼弥

増加傾向にある。球磨のこの状況は、私も訪れたい。多良木町の現状を踏まえて私は、もっと多くの人が、人吉球磨地域を訪れたい。自然、良質な温泉、情緒あふれる風景を体感してもらいたい。望みや、生きるエネルギーとしてほしいからだ。人吉球磨の活性化と、人吉球磨の元氣やエネルギーが、九州、熊本、熊本の震災復興の一筋の光となることを心より願っている。

お店紹介

今回のお店紹介は、湯前町の「ゆのまえ温泉 湯楽里」さんを紹介いたします。料理長は荒川巧さん。今年の3月で19年目を迎える当店。四季折々の彩り豊かな料理を真心込めて提供されています。



2,500円コース御膳
※税抜き・予約のみ

宴会コースは、ご予算に応じたメニューにできます。詳しくはお電話下さい。

温泉に浸かり、料理を堪能しながら楽しい時間を過ごしませんか？お客様のお越しをスタッフ一同、心よりお待ちしております。



宴会コース(写真は例です) ※予約のみ

豚角煮と田舎風煮物・
鶏白湯ラーメン 880円(税込)

丁寧に煮出した鶏ガラスープにじっくり仕上げた角煮、奥球磨のお母さんの味・お煮物が相性抜群。

ゆのまえ温泉 湯楽里

球磨郡湯前町 1588-7

TEL 0966-43-4126

営業時間 10:00 ~ 21:00

(オーダーストップ 20:00)

定休日 第2・4月曜

(祝日の場合翌日火曜)

「奥球磨どんぶりフェア」開催中です！
期間は3月19日まで。
スタンプラリーも行われていて、集めて応募すれば素敵な商品が抽選で当たります。
(応募多数の場合は抽選)



吉兆の予感...



多良木町立黒肥地小学校の職員室には、ちょっと珍しい育ち方をしている植物があります。ベビーサンローズという植物で、中央の葉脈から色がはっきりと分かれているのが、写真をご覧になっても、おわかりになると思います。南田義昭教頭が4月に同校へ赴任されて来られてから、液体肥料は時々あげる程度で、水をやるなど簡単なお世話をされていたら、次第に株が増え、段々と茂ってきたそうです。「最初は陽の加減かな？」という位にしか感じていなかったのですが、やがて現在のようなくっきりとした変色を発見されました。

「私もですが、児童らも驚いています。何か町にとって良いことがあるといいですね」と、期待されていました。

次のページへどうぞ

